

(7) 近畿



近畿地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

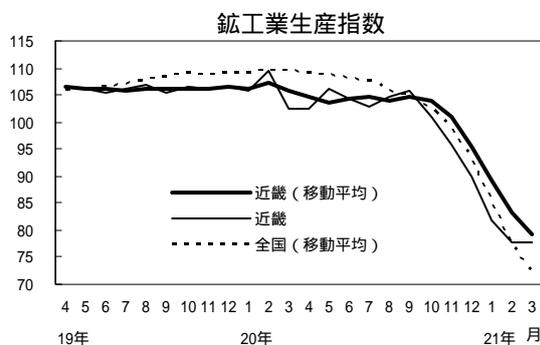
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 21 年 2 月）	今回（平成 21 年 5 月）	
鉱工業生産	大幅に減少	下げ止まりの兆し	
住宅建設	増加	大幅に減少	
雇用情勢	急速に悪化しつつある	急速に悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。

一般機械は、ボイラ・原動機、建設機械、自動車向けの軸受け等が不調だったことから、減少している。化学は、有機薬品やプラスチックの生産水準が低下していることから、減少しているものの、足もとでは増産の動きもみられる。食料品・たばこは、飲料が好調だったことから、増加している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池、エアコン、太陽電池モジュール等の生産が落ち込んだことから、減少しているものの、3月は、在庫調整が進展したことからリチウムイオン蓄電池等の生産が増加している。鉄鋼は、自動車向けを中心に減少している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

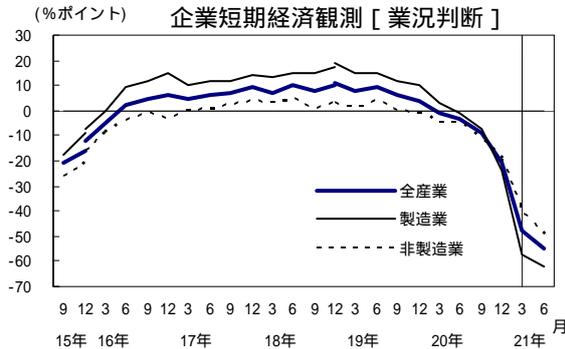
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	17.0	0.6	26.9	28.1	7.6
化学	14.5	6.6	7.9	7.6	15.1
食料品・たばこ	9.1	2.0	1.7	2.4	4.3
電気機械	8.5	11.4	19.4	15.7	7.6
鉄鋼	7.5	13.5	34.8	31.2	4.9
鉱工業	100.0	8.7	17.2	16.6	5.4

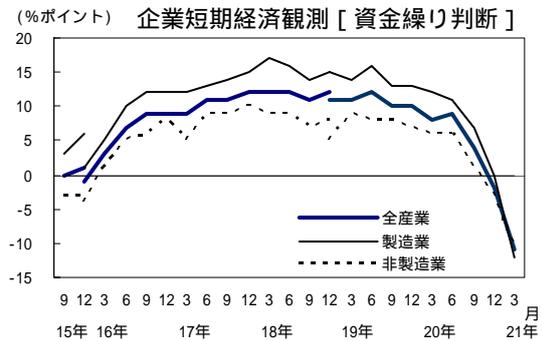
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

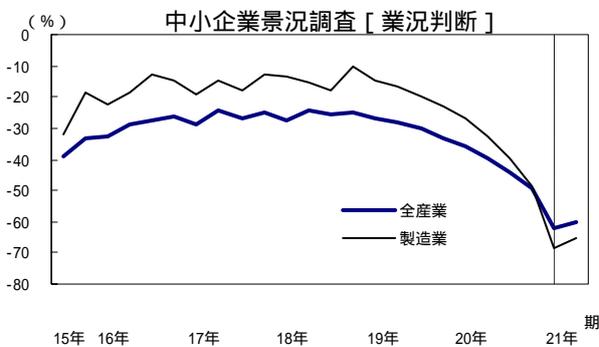
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

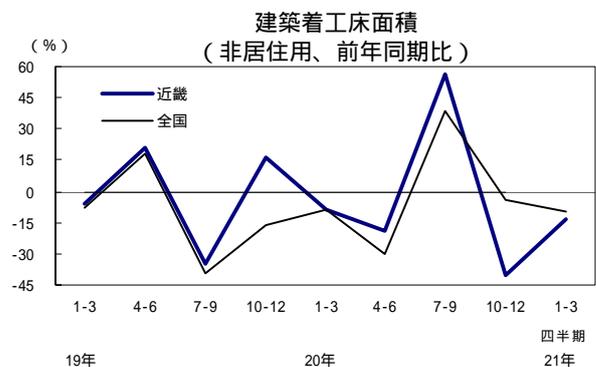
「AV関連商品、白物家電共にほぼ前年並みの売上となり、流通在庫の消化は比較的進んでいるが、出荷ベースではまだまだ厳しい状況である(電気機械器具製造業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全産業	2.5(3.3)	8.1
製造業	2.1(4.1)	11.0
非製造業	7.5(2.6)	5.3

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

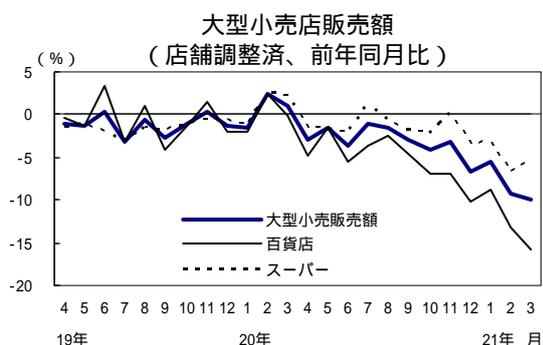
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、生鮮食品が好調だったものの、ジャケットやコートなどの冬物衣料や、アクセサリ・靴・バッグなどの身の回り品が不調だったことから、前年を下回った。2月は、気温が平年より高く、コートなどの冬物衣料が不調だったことに加え、飲食料品が低調だったことから、前年を下回った。3月は、春物衣料の動きが鈍く、衣料品が低調だったことに加え、宝飾・貴金属などの高額商品が不振だったことから、前年を下回った。なお、大阪市内の複数の店舗では、改装・建て替え工事により売場面積が減少している。近畿百貨店協会によると、4月の近畿地区の売上高は、前年同月比で11.5%減となっている。

スーパーは、肉食志向により、調理用品等の家庭用品が好調だったものの、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

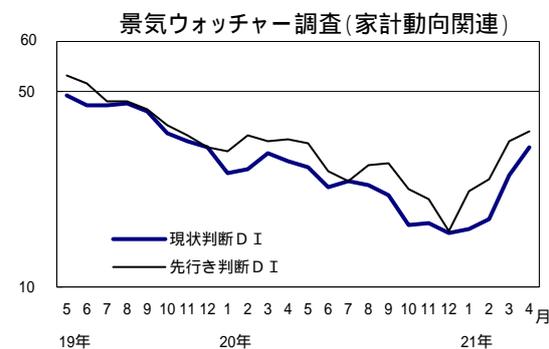
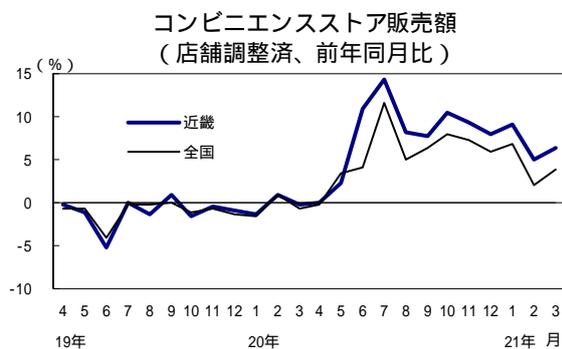
「車による来園の減少が目立っている。ガソリン価格がやや上昇傾向にあるほか、週末の高速道路料金引下げにより、車の流れが都市圏から地方に向かっている(遊園地)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	2.7	1.8	4.8	8.2
百貨店	4.0	3.6	8.2	12.6
スーパー	1.7	0.5	2.0	4.9
コンビニ	4.4	10.1	9.2	6.8
景気ウォッチャー	33.4	30.4	22.3	26.1

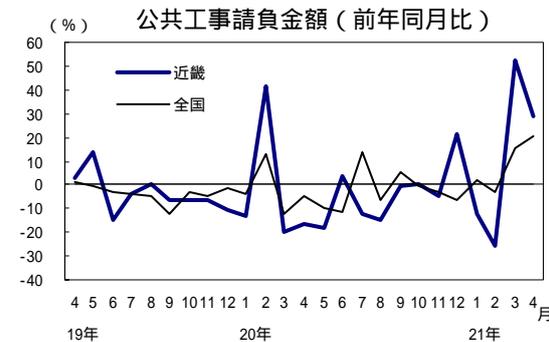
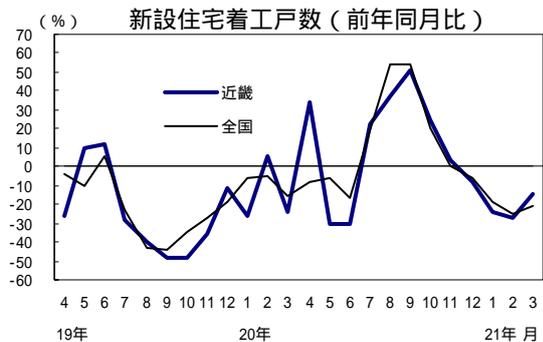
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

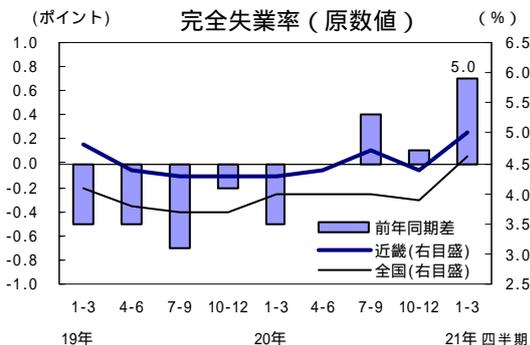
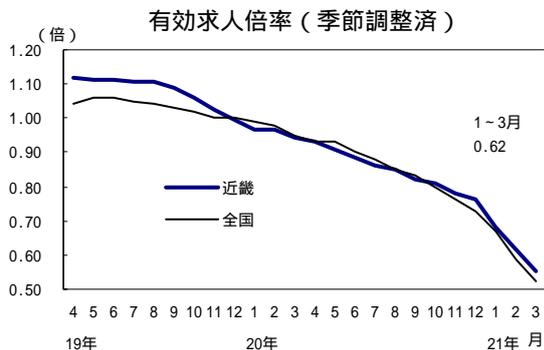


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

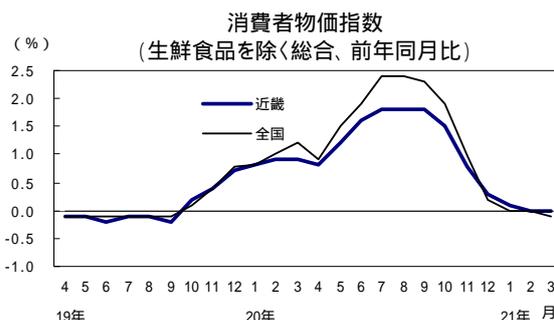
「企業からの求人数が少し増えてきた感はあるが、依然として絶対数は少ない (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	930	974	1,008	1,081	356
(前年比)	5.1	8.5	5.9	6.6	12.7
負債総額	3,007	2,461	3,216	3,968	685
(前年比)	43.0	59.1	28.6	59.4	27.1



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 環境対応車に対する税制や補助金に関する問い合わせや来店が増えている。少しでも有利に買換えたい客で、店内が普段以上ににぎわっている日が多い (乗用車販売店)。

<先行き>

- 過去最大規模の住宅ローン減税がスタートし、特に6月4日から認定が開始される長期優良住宅には大きな優遇があるため、今後は上向き傾向となる (その他住宅 [展示場])。

